

高校を卒業した 奨学生と保護者からの声

奨学金の給付を完了した高校3年生と
その保護者を対象に、アンケートを実施しました。

奨学生には「将来の夢」を記入いただき、
その内容をもとに成果報告会で発表いただいたので、
重なる部分がありますが、保護者の方からの声も含めて、
ここで紹介いたします。

奨学生から

私は高校卒業後、ウェディングプランナーを目指しています。結婚式を作り上げる仕事に魅力を感じ、カップルの特別な瞬間をサポートしたいと思っています。専門学校で学び、実務経験を積んでスキルを磨きながら、将来は信頼されるウェディングプランナーになりたいです。



保護者の方から

子どもが高校を卒業し就職するのですが、奨学生として自分を支えてくれた方々へのお礼と感謝の気持ちを忘れずに、社会人としてしっかりと成長をしてもらいたいです。私もその姿を見守っていきます。本当にありがとうございました。奨学金制度を受けて頑張っている高校生を応援しています。



保護者の方から

子どもの将来を母子家庭で、ひとりの収入で、家計を支えていくため、日常をすごすことでいっぱいでした。そんな中で奨学金制度のおかげで、私の気持ちにも少しゆとりももてるようになり、前にすすめるようになりました。ありがとうございました。感謝しております。



※アンケートの内容を一部修正して掲載しています。

奨学生から

これからの夢は、まだはっきりと決まっていませんが、立派な社会人として人の見本となり、社会に貢献できるように精一杯頑張りたいと思います。最後に、この奨学金を受けて、改めて自分を支えてくれる人がいることを実感しました。本当に感謝しています。ありがとうございました。



奨学生から

私の夢は、子どもたちに運動する楽しさを伝えられる保育士になることです。専門学校は1年次から実習があり、子どもたちと関わりながら実際に運動指導ができるため、実践力も身に付けることができます。小学校やスポーツクラブなどの運動指導、保育の現場で実践的に一人ひとりに合った指導方法を学び、身体を動かすことの楽しさを伝えられる保育士を目指したいと思います。



奨学生から

今までありがとうございました。これから大学へ進学し、少しでも社会に貢献できる社会人になれば嬉しいです。



人と地域と未来をつなぐ会報誌



公益財団法人
新潟ろうきん福祉財団

やさしくツナガル

Vol. 2

2025.06

特集

高校奨学生による 成果報告会



今年も当財団の奨学金を受給していた奨学生が、高校を卒業し新たな進路に向かって旅立っていきました。今回の「やさしくツナガル」では、奨学生たちが「旅立ち」に寄せる思いを

語った「奨学生成果報告会」の様子とあわせて、奨学生とその保護者からのアンケート回答の内容を紹介し、ご寄付いただいた皆様へご支援に対する感謝の気持ちをお届けします。



公益財団法人
新潟ろうきん福祉財団

〒950-0965
新潟市中央区新光町6番地2 勤労福祉会館4階
TEL: 025-288-5273
E-MAIL: info.zaidan@niigata-rokin.or.jp

発行元 公益財団法人
新潟ろうきん福祉財団
発行責任者 中川亨
編集担当 中澤誠

公式ホームページURL
<https://zaidan-hukushi.or.jp>



第2回 新潟県奨学金ネットワーク主催

高校奨学生による 成果報告会

2025年3月2日(日)新潟ユニゾンプラザで、新潟ろうきん福祉財団(以下「ろうきん財団」という)の高校奨学生が「私の夢」を語る成果報告会を開催しました。会場には、昨年に引き続いて、支援者や関係団体役職員、一般市民など計102名から、参加して頂きました。

江花新潟県奨学金ネットワーク代表による「もっと奨学金問題に関心を持っていたきたい」旨のあいさつを受けた後、ろうきん財団専務理事の中川が「奨学金問題



江花ネットワーク代表

の現状と課題」について、解説を行いました。その後、ビッグスワンから駆けつけていただいた花角新潟県知事から、ご来賓として感謝と激励の挨拶を頂きました。花角知事からは、10人の奨学生の発表を最後まで聞いて頂きました。

花角知事からの挨拶

新潟の未来を支える、学びたい意欲を持った子どもたちが、学ぶ機会を失うことが無いように、県としても考えていきたい。



来賓の花角知事

第一部

奨学生10名が「私の夢」について発表しました

今回、発表頂いた奨学生10名は、全員ろうきん財団の給付型奨学金を受けている高校生です。女子が8人、男子2人。また、3年生5人、2年生3人、1年生2人です。佐渡や上越方面からの奨学生もいました。昨年同様に予め800字程度の作文を書いてもらい、それを読み上げる形での発表としました。全員ではありませんが、発表内容に共通していたのは、

- ①大学や専門学校等など更なる進学を考えている
 - ②支援者や地域への恩返しをしたい
 - ③頂いた奨学金を進学のために貯金している
- などでした。



奨学生の発表内容

以下簡単にご紹介します。

- 大学では海外留学を含め、もっと勉強して英会話ができるようになりたい。
- 奨学金で進学を考えられるようになった。
- ウェディングプランナーをめざして専門学校に進学する。
- 自立した大人になって、誰かのために行動できるようになりたい。
- 寮での日常生活が大切な思い出。
- 運動の楽しさを教える保育士になりたい。
- 将来は支援を必要としている学生に支援できるようになりたい。
- バスケットボールのコーチになりたい。
- 大学進学して勉強もスポーツも、より高みをめざす。
- 人の命を支える助産師になりたい。
- 美容の力で周囲の人を輝かせたい。



奨学生の発表の様子



第二部

グループディスカッション

第二部は参加者全員が10グループに分かれてのグループディスカッションです。集会の感想と私たちがこれからできることについて、意見交換を行いました。主な意見は以下の通りです。

発表の感想や奨学生への応援メッセージ

- 発表者はみんなしっかりしている。直接、話を聞くことが自分事になるなと感じた。
- 夢を持っている将来へのお手伝いできてよかった。
- ろうきんを利用していることが間接的ではあるが、若者の将来を支えていることに誇りを感じた。
- 明確に将来の夢を持っている発表が多く感動した。
- 将来の展望につながっていることは、給付額以上の効果が出ている。
- 奨学生はみんな大人で明確な将来性を持っており、驚いた。
- 人の為になりたい、人を支えていきたい思いが発表者にあった。



各グループとも活発に意見が交わされました



奨学生を支援するために私たちにできること

- 関心を持ってもらうためには“発信”すること。
- 少子高齢化が進む中で、どう社会を育てていくのか、大学奨学金も含めて、この世代を社会・企業が支えていく必要がある。
- 今日の報告会参加者にもっと若い人が増えれば、変化が生まれるのではないかな。
- 常時、個人や団体から寄付を受け入れる体制や仕組みが必要だ。
- この会で聞いたこと、感じたことを家族や身近な人と話しをする。



研究発表

「全ての子どもたちが夢を追える社会へ」

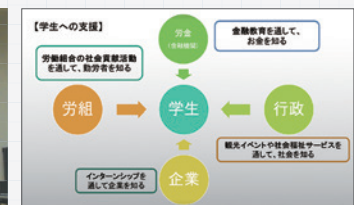
ろうきん小千谷支店 渡辺佳樹さん

今回の成果報告会の中では、「全ての子どもたちが夢を追える社会へ」と題した研究発表が行われました。これは、新潟ろうきん小千谷支店の渡辺佳樹さんが、全国労働金庫協会主催の研修に参加した成果としてまとめたものです。

現状の奨学金制度は貸与型が中心であり、学問を奨励するための金銭的支援ではなく、借金の色合いが強くなっており、奨学金の返済苦を原因とした悲しいニュースが後を絶ちません。これが今の日本の実態です。「すべての子どもたちが、自分自身で未来を選べる環境を作りたい」、「子ども達が自らの責任で未来を選択できる社会にしたい」、そのためには「奨学金を変えたい。奨学金制度を通じて、金銭だけではない将来に向けた直接的な支援ができる環境ができないだろうか」と考え、奨学金問題に真剣に向き合った渡辺さんから、問題の解決策として、「活動返済型奨学金」という、新しい奨学金事業の提案がありました。

この事業は、経験と成長を返済財源とする奨学金を創出し、学びを諦めない社会の実現に加え、学生支援の循環から活気ある地域社会づくりに寄与することなどを目的としています。このような仕組みは、国内外ですでに制度化されているものもありますが、渡辺さんは、今後も研究を続けて、実現性のあるプランを作っていきたいと語っています。

渡辺さんの発表を聞き、私たち一人ひとりが、自分の立場で何ができるか、自分は何をやるべきかを真剣に考えることが大切だと、改めて感じました。



「人を支える人に」

参加者の感想にもあるように、奨学生の発表の中で印象的だったのは、単に支援に対する感謝だけでなく、「今度は自分も人を支える人になりたい」という声が、いくつも聞かれたことです。「やさしさ(寄付)」が、奨学金として困っている人に届けられ、「ありがとう(感謝)」という気持ちとともに、次の「やさしさ(人を支えたい)」を生みだしていく。単に金銭だけでない「心のつながり」を生み出すことが、この奨学金の本当の価値だと改めて気づかされました。

